

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里北中学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「理科」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

- (1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領における第1分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第2分野の「生命」を柱とする領域からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

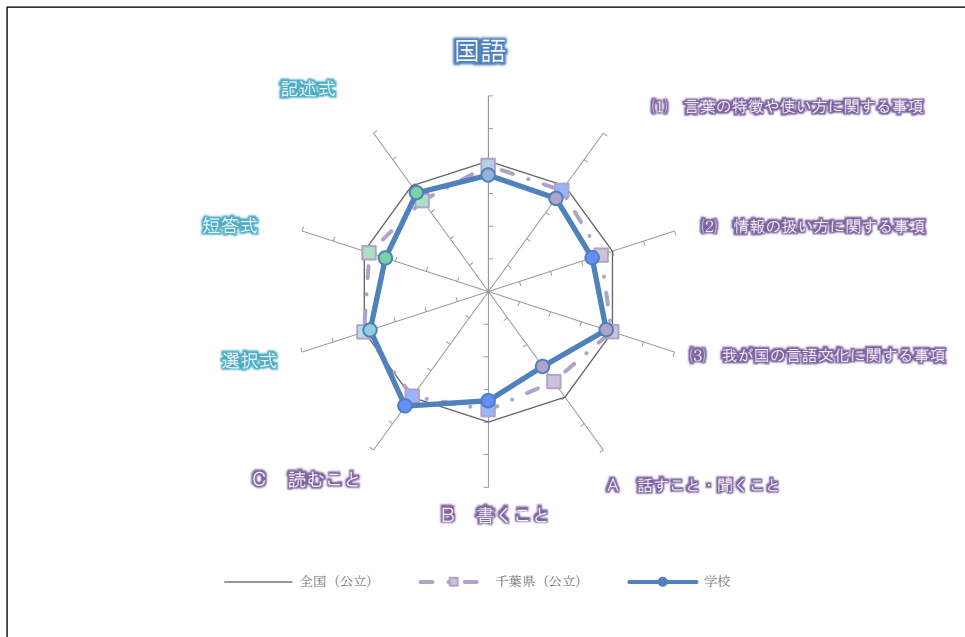
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



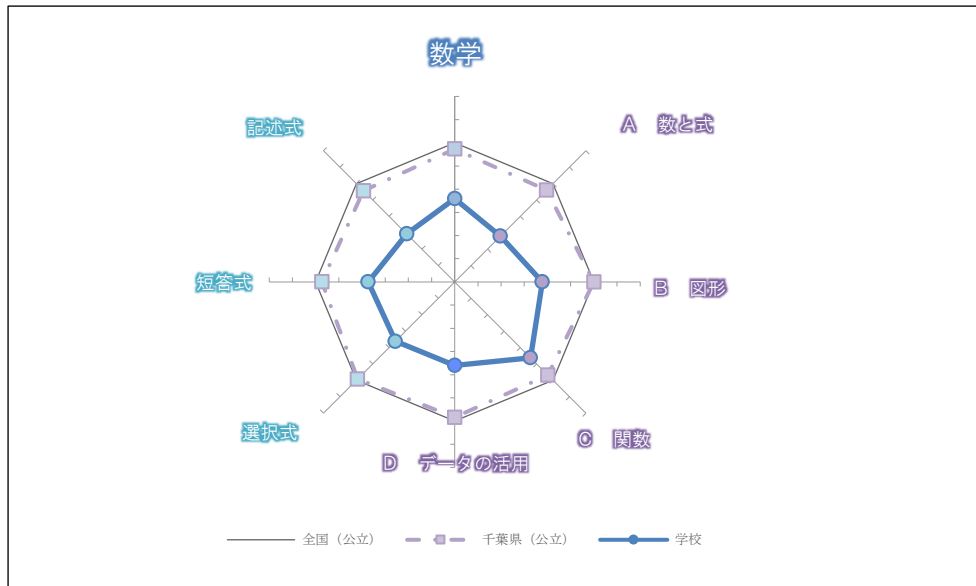
【特徴と現状】

- 全国平均と比較して全体的に、正答率がやや下回っています。
- 「短答式」の問題について、全国平均と比較して正答率が大きく下回っています。
- 「話すこと・聞くこと」について、スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す問題では、全国平均を大きく下回っています。なかでも無解答率が目立ちます。
- 「書くこと」について、資料の一部から必要な情報を引用し、根拠を明確にして書く問題ではやや全国平均を下回っています。
- 「読むこと」について、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題では全国平均を上回っています。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する問題で、全国平均をやや下回っています。

【改善方策等】

- 自分の考えをまとめる際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮し、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなど、相手にわかりやすく伝わるように表現をするよう指導していく必要があります。
- 意見文を書く際には、根拠を明確にすることが大切です。そのためには、まず自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるのかを確かめるよう指導していく必要があります。今後も、引き続き学校で丁寧に指導してまいります。
- 文学的な文章を読み合う際には、個々の場面や描写から直接わかることを把握するだけでなく、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結びつけたりすることによって、場面や描写に新たな意味づけを行えるよう指導していく必要があります。
- 漢字の行書とそれに調和した仮名を書くためには、筆脈を意識して、行書の特徴に調和する仮名の書き方を指導していく必要があります。

数 学



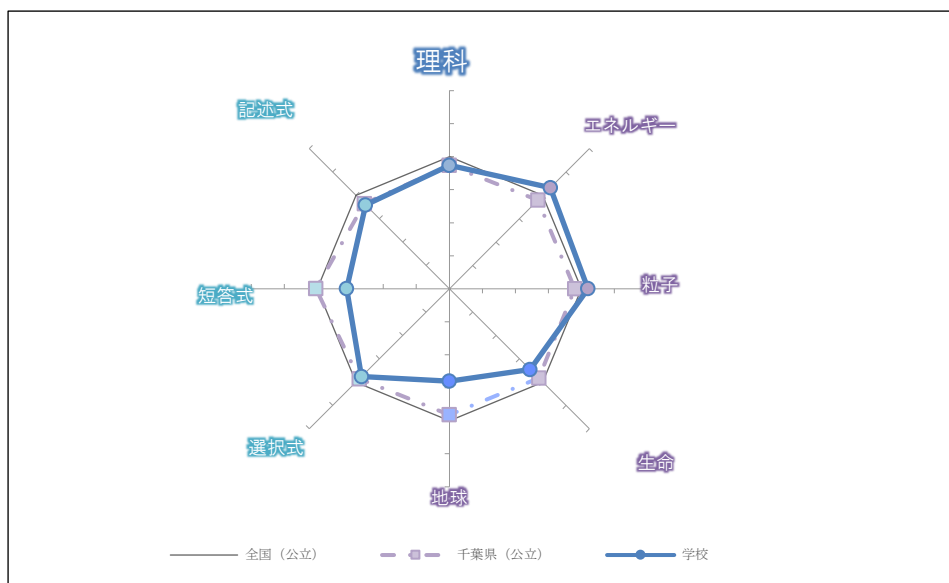
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が大きく下回っています。
- 「記述式」「短答式」「選択式」いずれも全国平均を大きく下回っています。
- 「数と式」の問題で全国平均を大きく下回っています。自然数を素数の積で表すことに課題があります。
- 「図形」の問題では全国平均を大きく下回っています。筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する証明に課題があります。
- 「関数」の問題では全国平均を下回っています。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに対して課題があります。
- 「資料の活用」の問題では全国平均を下回っています。箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることによって課題があります。

【改善方策等】

- 自然数を素因数分解することを通して、整数の性質についての理解を深めることができるように指導していく必要があります。
- 結論を導くために何がわかればよいかを明らかにし、与えられた条件の整理、着目すべき性質や関係を見いだすこと、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考える活動を取り入れ、数学的に証明できるように指導していく必要があります。
- 様々な問題を数学の活用で解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当てることが大切です。例えば、表、式、グラフなどを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、説明できるように指導する必要があります。
- 目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って考察し、判断することを通して、統計的に問題解決することができるように指導していく必要があります。

理科



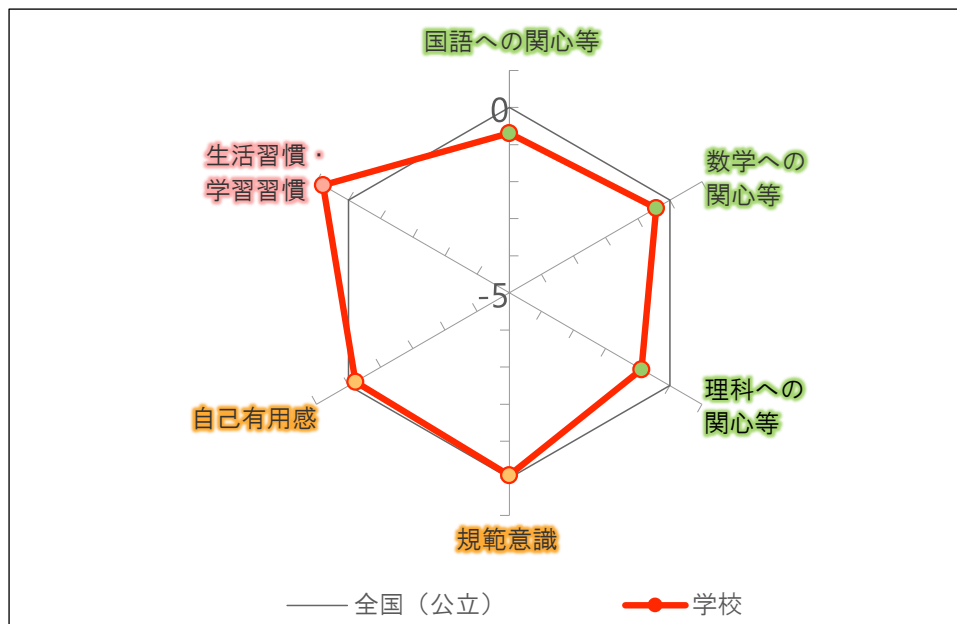
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率がやや下回っています。
- 「短答式」の問題について全国平均を下回っています。
- 「エネルギー」の分野では、特に日常生活と関連付けた問題で全国平均を上回っています。
- 「粒子」の分野では、化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学反応式で表す問題について全国平均を上回っています。
- 「生命」の分野では、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかを問う問題で全国平均を下回っています。
- 「地球」の分野では、特に大地の変動に関する推論について批判的に考察する問題で全国平均を大きく下回っています。

【改善方策等】

- 「生命」の分野では、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法を検討し、探究の過程の見通しを持つことができるようにする必要があります。その際、話し合い活動を通して、課題を解決するために適切な探究の方法を確認することで、観察、実験の基本的な技能を身につけていくことも同時に指導してまいります。
- 「地球」の分野で、生徒は過去の大地の変動について垂直方向の移動だけを推論してしまいがちであるため、プレートが移動して海底が山脈になった例などを示しながら、水平方向の移動にも着目できるように指導していく必要があります。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「難しいことでも、失敗を恐れなくてチャレンジしていますか」に肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均を下回っています。また、「家で学校からの課題でわからないことがあったとき、どのようにしていますか」に「そのままにしている」が全国平均より下回っています。チャレンジ精神や粘り強さが弱い傾向にあります。
- 「普段（平日）、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をどのくらい利用していますか」に対し、「4時間以上」と回答する割合が全国平均と比べ、8.2ポイント上回っています。携帯電話やスマートフォンに依存している生徒が多い傾向にあります。
- 「朝食を毎日食べていますか」に「している」と回答する生徒が全国平均より5ポイント下回っています。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。特に、知識を問う短答式の問題に課題が見られます。今後、ドリル学習を取り入れるなど基礎・基本の徹底を図っていく必要があります。正答率が高い生徒は、以下の質問において肯定的な回答が見られました。

- ・「朝食を毎日食べている」
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ている」
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」

家庭での生活習慣、学校での主体的な学習態度が学力に影響を与えることが明らかとなりました。家庭と学校がそれぞれの役割を果たし、子ども達の学力向上に影響を与えることが明らかとなりました。家庭と学校が連携し、目指す方向性を確認し、子ども達の学力向上につなげていくことが大切です。今後ご家庭でのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。